

(2) なたね

○2015/16年度のなたね需給(予測)のポイント

生産量は、カナダで増加するものの、EU、中国、ウクライナ等で減少することから、世界全体では前年度より減少すると見込まれる。

消費量は、インドで増加するものの、EU、カナダ、中国等で減少することから、世界全体では前年度より減少すると見込まれる。

期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから前年度より減少し、期末在庫率も低下すると見込まれる。(表 IV-6-①)

表 IV-6-① 世界のなたね需給

(単位:百万トン)

区 分	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16 (予測)	対前年度 増減率(%)
生産量	61.5	63.6	72.0	72.1	67.7	▲ 6.1
消費量	63.5	65.4	69.5	71.6	69.5	▲ 2.9
うち搾油用	60.5	62.3	66.7	68.2	66.1	▲ 3.1
貿易量	12.9	12.5	15.0	14.6	13.4	▲ 8.6
期末在庫量	6.6	5.0	7.8	7.8	5.5	▲ 28.7
期末在庫率	10.3%	7.7%	11.2%	10.8%	8.0%	▲ 2.9

資料: USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 (January 2016)

注: 1) 年度区分は、2015/16年度についてみると、生産量は北半球の2015年秋冬なたね(収穫は4月~7月)、同春なたね(同8月~10月)及び南半球の冬なたね(同10月~12月)の計(見込み)であり、消費量、貿易量、期末在庫量は各国市場年度(末)の計(見込み)である。

2) 貿易量とは輸出量を意味する。

3) 期末在庫率の対前年度増減率は前年度とのポイント差である。

ア 生産量

2015/16年度の世界生産量は、2013/14年度に次ぐ史上2番目の単収を達成したカナダで増加するものの、EU、インド、中国等で減少することから、世界全体では前年度より減少(▲6.1%)し、67.7百万トンとなる見込みである。(表 IV-6-②、③、図 IV-6-①)

表 IV-6-② 世界のなたね生産の状況

(単位:百万トン)

区 分	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計	61.5	63.6	72.0	72.1	67.7	▲ 6.1	100
EU	19.2	19.6	21.3	24.5	21.8	▲ 10.8	32
カナダ	14.6	13.9	18.6	16.4	17.2	4.8	25
中国	13.4	14.0	14.5	14.8	14.1	▲ 4.5	21
インド	6.2	6.8	7.3	6.3	6.0	▲ 4.9	9
豪州	3.4	4.1	3.8	3.5	3.1	▲ 10.5	5
(参考)							
ウクライナ	1.4	1.3	2.4	2.2	1.7	▲ 22.7	3

資料: USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 (January 2016)

EUでは、主産国のフランス、ドイツ、ポーランドで、播種面積が減少、また、高温・乾燥型の天候に見舞われたことから、EU全体の生産量は前年度より減少（▲10.8%）する見込みである。

写真：フランス シャラント＝マリティム地方
開花期のなたね（2015年4月）



写真提供：Serge Brossard 氏

写真：ドイツ ザクセン・アンハルト州
収穫直前のなたね（2015年7月）



写真提供：アイ・シー・ネット（株）

中国では、なたねの臨時買上げ・備蓄制度が廃止され主産地を対象とする補助金制度の導入が進められているが、補助金による措置が前年度までの臨時買上げ価格を下回っていることによる播種面積の減少や、開花期を通じて長雨に見舞われ単収が低下したことから、生産量は前年度より減少（▲4.5%）し、14.1百万トンとなる見込みである。

カナダでは、西部産地では生育初期に乾燥型の天候に見舞われたものの、夏の降雨により作柄が改善したこと、東部産地では生育期間を通じて好天に恵まれたことから、2013/14年度に次ぐ史上2番目の単収を達成し、生産量は前年度より増加（4.8%）し、17.2百万トンとなる見込みである。

写真：カナダ アルバータ州（2015年5月）
順調に生長するなたね



写真提供：Gerry Good 氏

写真：カナダ アルバータ州（2015年7月）
収穫間近のなたね



写真提供：Gerry Good 氏

ウクライナでは、冬枯れの被害、及び大豆等の生産コストの低い作物へのシフトから、播種面積が減少し、生産量は、前年度より減少（▲22.7%）して、1.7 百万トンとなる見込みである。

豪州では、2015 年 10 月の熱波による被害は当初懸念より小さく、主産地のニューサウスウェールズ州では、春季（9～11 月）に十分な土壌水分に恵まれたことから作柄は良好となったものの、なたね価格の低迷により播種面積が減少したことから、生産量は前年度より減少（▲10.5%）し、3.1 百万トンとなる見込みである。

写真：豪州 ウェスタンオーストラリア州
なたねの播種作業(2015 年 3 月)



写真：豪州 ウェスタンオーストラリア州
開花期のなたね (2015 年 8 月)



写真：豪州 サウスオーストラリア州
なたねの切り倒し作業(2015 年 10 月)



写真：豪州ビクトリア州
なたねの収穫(2015 年 12 月)



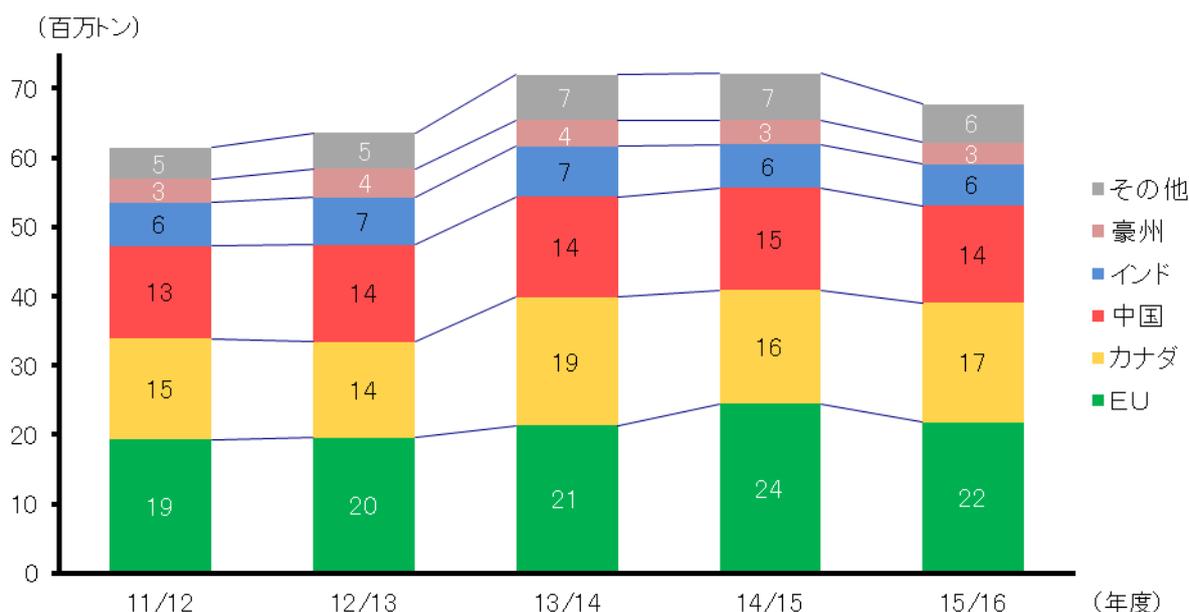
写真提供：すべて、Australian Crop Forecasters

表 IV-6-③ なたねの 2015/16 年度収穫面積及び単収

区 分	生 産 量		収 穫 面 積		単 収	
	(百万t)	対前年度 増減率	(百万ha)	対前年度 増減率	(t/ha)	対前年度 増減率
世界合計	67.7	▲ 6.1 %	33.78	▲ 5.9 %	2.00	▲ 0.5 %
E U	21.8	▲ 10.8 %	6.58	▲ 2.7 %	3.32	▲ 8.3 %
カナダ	17.2	4.8 %	8.10	▲ 2.9 %	2.12	7.6 %
中 国	14.1	▲ 4.5 %	7.40	▲ 2.5 %	1.91	▲ 2.1 %
インド	6.0	▲ 4.9 %	6.00	▲ 9.1 %	1.00	4.2 %
豪 州	3.1	▲ 10.5 %	2.40	▲ 11.4 %	1.29	0.8 %
(参考)						
ウクライナ	1.7	▲ 22.7 %	0.68	▲ 22.7 %	2.52	0.8 %

資料：USDA 「World Agricultural Production」、 「PS&D」 (January 2016)

図 IV-6-① 世界のなたね生産の状況



資料：USDA「PS&D」(January 2016) をもとに農林水産省で作成

イ 消費量

2015/16年度の消費量は、カナダ等で増加するものの、EU、インド、中国等で減少することから、世界全体では前年度より減少（▲2.9%）し、69.5百万トンとなる見込みである。（表 IV-6-④）

表 IV-6-④ 世界のなたね消費の状況

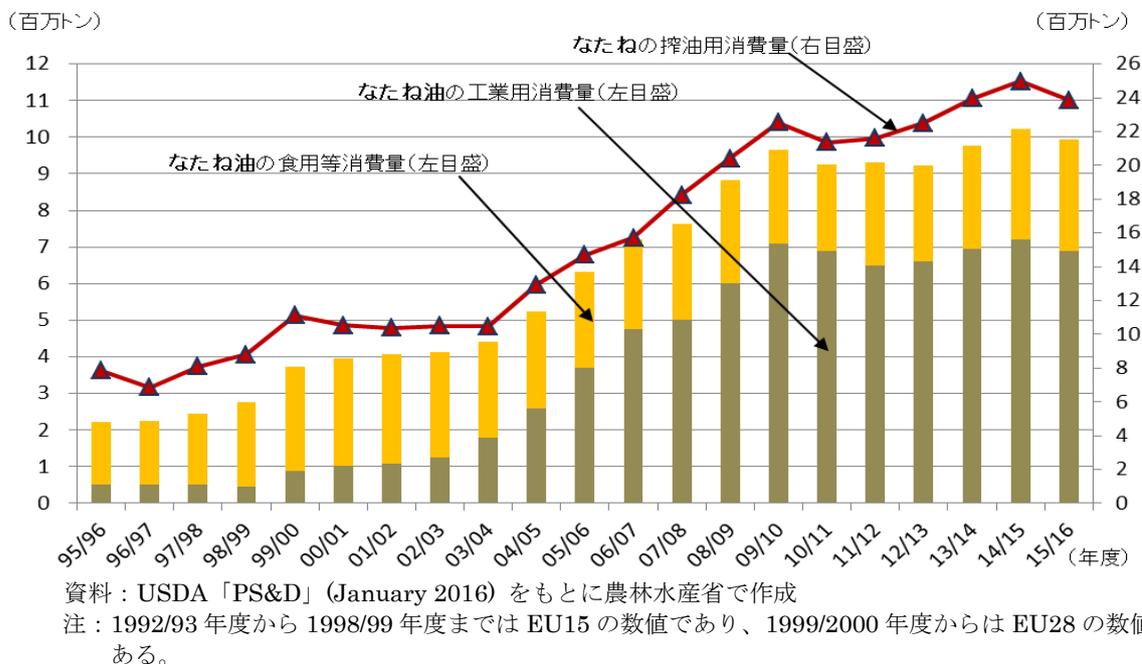
(単位：百万トン)

区分	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占める 割合(%)
世界合計	63.5	65.4	69.5	71.6	69.5	▲ 2.9	100
うち搾油用	60.5	62.3	66.7	68.2	66.1	▲ 3.1	
EU	22.5	23.4	24.9	25.9	24.8	▲ 4.4	36
うち搾油用	21.6	22.5	24.0	25.0	23.9	▲ 4.6	
中国	16.7	17.6	19.1	18.9	18.7	▲ 1.1	27
うち搾油用	16.1	17.0	18.5	18.3	18.1	▲ 1.1	
カナダ	6.6	7.0	7.3	6.5	6.1	▲ 6.2	9
うち搾油用	7.0	6.7	7.0	7.4	8.1	10.1	
インド	7.5	7.0	7.0	8.0	8.8	10.2	13
うち搾油用	5.7	6.0	6.3	5.5	5.1	▲ 7.3	
日本	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	▲ 0.8	4
うち搾油用	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	▲ 0.8	

資料：「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」(January 2016)

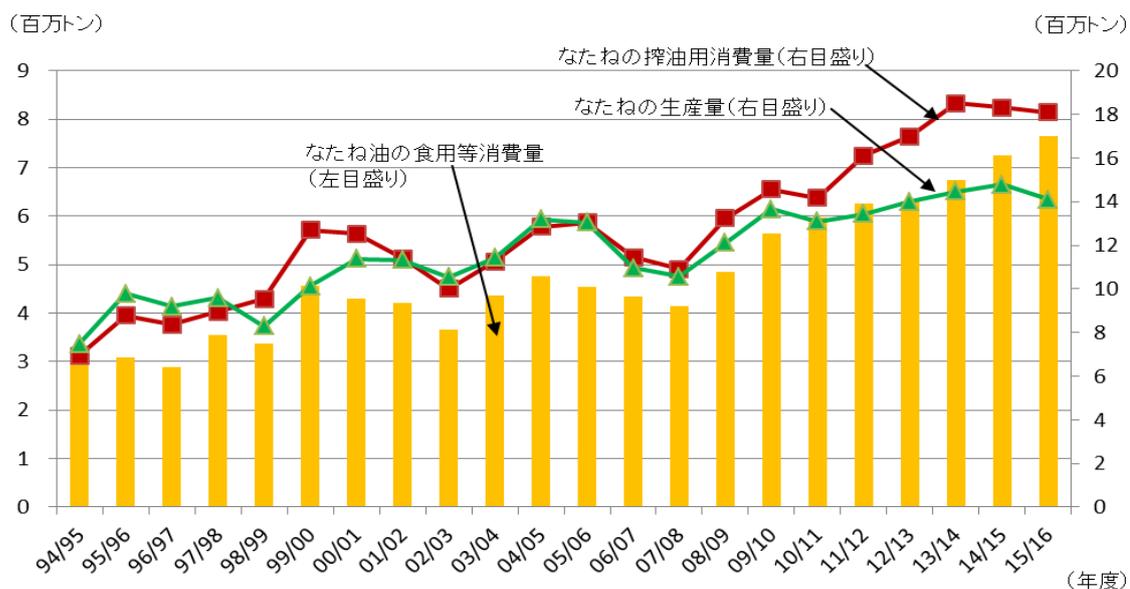
EUでは、なたね油の食用等消費量はほぼ一定。また、工業用消費量は年々拡大していたが、2009/10年度以降は横ばいで推移。(図 IV-6-②)

図 IV-6-② EUのなたね搾油消費量及びなたね油の用途別消費量の推移



中国では、生産量が伸び悩む中、搾油用消費及び食用消費量の伸びに追いつけない状況となっている。(図 IV-6-③)

図 IV-6-③ 中国のなたね搾油消費量及びなたね油の食用消費量等の推移



ウ 貿易量

2015/16年度の貿易量（輸出量）は、2国で世界の貿易量の75%を占めるカナダ、ウクライナの減産に伴い輸出量が減少することから、世界全体では前年度より減少（▲8.6%）し、13.4百万トンとなる見込みである。（表 IV-6-⑤）

表 IV-6-⑤ 世界のなたね貿易の状況

（単位：百万トン）

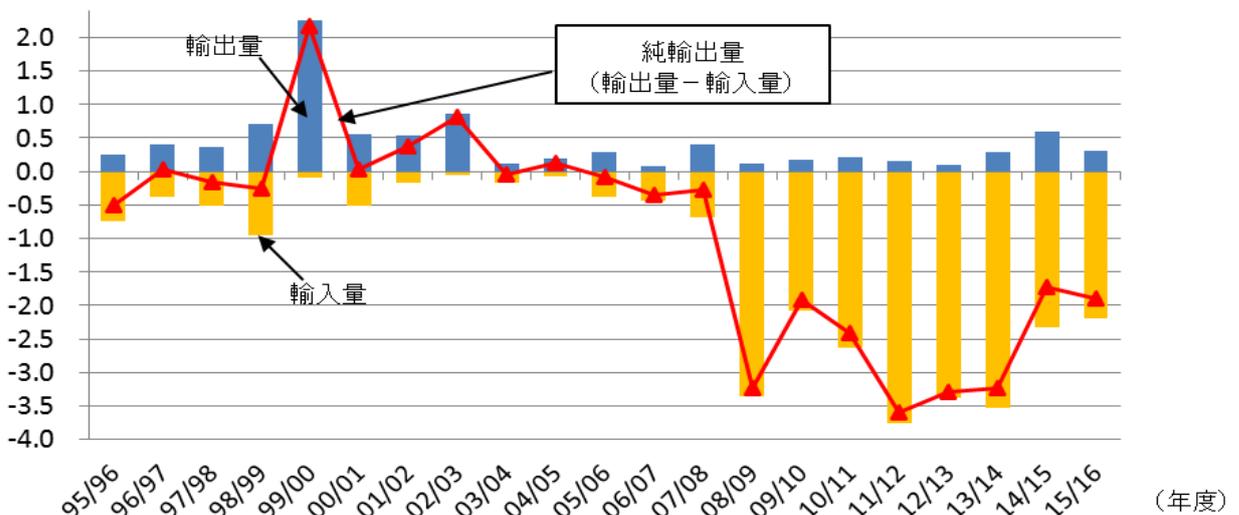
区分	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計	12.9	12.5	15.0	14.6	13.4	▲ 8.6	100
(輸出国)							
カナダ	8.7	7.1	9.2	9.2	8.7	▲ 5.6	65
豪州	2.5	3.7	2.7	2.5	2.6	6.1	19
ウクライナ	1.2	1.3	2.2	2.0	1.4	▲ 28.7	10
E U	0.1	0.1	0.3	0.6	0.3	▲ 49.0	2
米国	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	▲ 12.3	1
(輸入国)							
中国	2.6	3.4	5.0	4.6	4.3	▲ 7.5	—
日本	2.4	2.5	2.4	2.5	2.5	▲ 1.6	—
E U	3.8	3.4	3.5	2.3	2.2	▲ 5.1	—
メキシコ	1.5	1.4	1.5	1.5	1.5	▲ 2.6	—
アラブ首長国連邦	0.8	0.6	0.7	0.8	0.8	0.0	—

資料：USDA「Oilseeds：World Markets and Trade」、 「PS&D」(January 2016)

E Uでは、搾油用需要が旺盛で、近年は域内の生産量では不足することから輸入量が増加し、2005/06年度以降は輸出超過から輸入超過に転じた。2015/16年度は、生産量の減少に伴い、輸出量が減少（▲49.0%）し、搾油用需要の減少に伴い、輸入量も減少（▲5.1%）する見込みである。（図 IV-6-④）

図 IV-6-④ E Uのなたねの純輸出量等の推移

（百万トン）



資料：USDA「PS&D」(January 2016) をもとに農林水産省で作成

カナダでは、生産量が増加するものの、搾油用需要の増加に伴い、輸出量は減少（▲5.6%）し、8.7百万トンとなる見込みである。

エ 期末在庫量

2015/16年度の期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから、在庫は取り崩され、世界全体では前年度より減少（▲28.7%）し、期末在庫率も低下（2.9ポイント減）する見込みである。国別には、米国等で在庫積み増しされるものの、EU、豪州、中国等で在庫が取り崩される見込みである。

（表 IV-6-⑥）

表 IV-6-⑥ 世界のなたねの期末在庫の状況

（単位：百万トン）

区 分	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16 (予測)	対前年度 増減率(%)	世界に占め る割合(%)
世界合計	6.6	5.0	7.8	7.8	5.5	▲ 28.7	100
カナダ	0.7	0.6	3.0	2.3	2.2	▲ 7.4	39
E U	3.1	2.5	2.1	2.4	1.3	▲ 46.5	23
中 国	0.8	0.6	1.0	1.5	1.2	▲ 23.3	21
インド	0.7	0.6	0.6	0.4	0.4	▲ 11.7	7
豪 州	0.6	0.2	0.5	0.6	0.2	▲ 69.1	4
期末在庫率	10.3%	7.7%	11.2%	10.8%	8.0%	▲ 2.9	—

資料：USDA「Oilseeds：World Markets and Trade」、 「PS&D」(January 2016)

写真：カナダ アルバータ州 なたねが保管されているサイロ

